

ひろしま国際建築祭 2025

Hiroshima Architecture Exhibition 2025



2025.10.4 Sat. — 11.30 Sun.

尾道エリア
尾道市立美術館 | LOG | ONOMICHI U2 ほか
福山エリア
ふくやま美術館 | iti SETOUCHI | 神勝寺 禅と庭のミュージアムほか
+瀬戸内海周辺のサテライト会場

開催趣旨

〈ひろしま国際建築祭〉は、“建築”で未来の街をつくり、こどもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションとして掲げ、3年に一度、広島県内で開催する建築文化の祭典です。

初回となる『ひろしま国際建築祭2025』は、福山市の「ふくやま美術館市民ギャラリー」、尾道市の「尾道市立美術館」など、広島県外のサテライト会場を含む10を超える会場で開催します。

巨大な内海に面した瀬戸内地域では古来、風土や景観、伝統に呼応した名建築の数々が生まれてきました。その背景には、日本が国家として形づくられた遣隋使・遣唐使の時代から近世の朝鮮通信使・北前船にいたるまで、広島県の位置する瀬戸内海が“文化・物流の大動脈”だったことが理由としてあります。日本はこの瀬戸内海を通じ、海外から人や文化を招き入れ、あるいは発信し、この海を通じ文化交流を行ってきました。古建築はもとより、自然と文明が築いてきた瀬戸内地域特有の磁力に吸い寄せられるように丹下健三、安藤忠雄、伊東豊雄、SANAA、坂茂といった現代の建築家たちも挑戦的で実験的な名作を次々と生み出しています。それゆえに瀬戸内地域は古建築から現代建築まで「建築文化の集積地」として貴重な建築の宝庫となっているのです。

“文化・物流の大動脈”であった瀬戸内海の周辺地域は“つなぐ”ことを鍵にその礎を築いてきたといえます。『ひろしま国際建築祭2025』は、「つなぐ——“建築”で感じる、私たちの“新しい未来” Architecture : A New Stance for Tomorrow」をテーマに、歴史、風土、景観、技術、思想などさまざまな視点から“建築”に触れ、考え、交わる機会をつくり、ここ瀬戸内で建築文化を感じることから、みなさんと“新しい未来”像を探りたいと考えています。

『ひろしま国際建築祭2025』総合テーマ

つなぐ

——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”
Architecture : A New Stance for Tomorrow

地球規模で発生する自然災害や、戦争とそれに伴う難民問題、そして環境破壊——21世紀に入って四半世紀経った今も、私たちは様々な問題に直面し、不安を感じながら日常生活を送っています。

またここ日本では少子化・高齢化が進み、経済の停滞や無秩序な開発で街の風景が変わるなど、活気が失われつつあります。私たちはそのような状況のなかで、問題にどう向き合い、課題を解決していくべきでしょうか？

“建築”は単に建物や街づくりを指すものではありません。それは文化を生み・育み、私たちの生活をより豊かにしながら未来をつくっていくための「知恵」のひとつです。建築祭を通じ、私たちの新しい未来について、考えてみたいと思います。

建築文化の祭典〈ひろしま国際建築祭〉が始動します。

〈ひろしま国際建築祭〉は、“建築”を切り口に、私たちの社会の成り立ちや歴史、今直面する問題点・課題を考えるため、3年に一度開催する建築文化の祭典です。

初回となる『ひろしま国際建築祭2025』では、広島県福山市・尾道市の2都市を中心に、サテライト会場を含む10以上の会場で、建築にまつわる展覧会や見学会、トークイベント、映画上映会などを開催します。

01 地元美術館と連携した“建築展の同時期開催”

開催地となる2つの街の公立美術館、「尾道市立美術館」(設計：安藤忠雄)、「ふくやま美術館」(設計：佐藤総合設計)にて、建築に関する展示を同時に行います。

※「ふくやま美術館」は市民ギャラリーにて開催予定。



1



2



3



4



5



6



7



8



9

02 〈ひろしま国際建築祭〉のテーマに沿った“独自展示”

『ひろしま国際建築祭2025』のテーマは、『つなぐ——「建築」で感じる、私たちの“新しい未来”』です。このテーマに沿って福山市・尾道市の各会場で展示が行われます。例えば、福山の「iti SETOUCHI」会場では、建築家たちが考えた未来の街のビジョンなどを紹介します。

03 サテライト会場での企画展示 (瀬戸内エリアの他都市との連携・運動)

福山市・尾道市のメイン会場以外にも、「おりづるタワー」(広島市)、「domaine tetta」(岡山県新見市)、「A&Aプロジェクト」(岡山市)などとも連動した企画を実施予定です。

04 オープン・アーキテクチャー

文化財指定されている古建築や、通常非公開の現代建築など、普段、観ることができない建築を、この時期、特別に一般公開する予定です。

05 建築シンポジウム・トークイベントの開催

瀬戸内エリアに作品がある著名建築家たちを招きレクチャーを行います。

06 ラーニング・プログラム(教育プログラム)の実施

地元の小・中学生を招いて、建築鑑賞やワークショップなどのラーニング・プログラムを実施する予定です。

07 『瀬戸内アーキツリズム2025』ガイドブック発刊

福山・尾道など広島県を中心に、瀬戸内エリアの選りすぐりの建築を紹介。建築巡礼(アーキツリズム)に役立つ、瀬戸内エリアの建築に特化した本祭典の公式ガイドブックを発刊予定です。

建築祭の主な展示企画

ナイン・ヴィジョンズ：日本から世界へ 跳躍する9人の建築家

Nine Visions: Japanese Architects from Japan to the World

建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー建築賞」を受賞した、日本の建築家に焦点を当てた企画展です。「プリツカー建築賞」受賞の日本人建築家は、今やアメリカと並び、世界一の数を誇ります。

なぜ日本の建築家は世界で評価され、どのようにして世界レベルに達したのか？ その魅力と真相に迫ります。

〈企画概要〉

名称 ナイン・ヴィジョンズ：日本から世界へ
跳躍する9人の建築家
Nine Visions: Japanese Architects
from Japan to the World

会場 尾道市立美術館

参加建築家 プリツカー建築賞を受賞した8組(9名)の建築家
丹下健三(1987年受賞)、槇文彦(1993年
受賞)、安藤忠雄(1995年受賞)、妹島和世・
西沢立衛(2010年受賞)、伊東豊雄(2013年
受賞)、坂茂(2014年受賞)、磯崎新(2019年
受賞)、山本理顕(2024年受賞)



1. 台中国家歌劇院(台湾/設計:伊東豊雄)©伊東豊雄建築設計事務所
2. 紙のカテドラル(ニュージーランド/設計:坂茂) Christchurch Cardboard Cathedral/photo by Stephen Goodenough

丹下健三自邸復刻プロジェクト

〈神原・ツネイシ文化財団〉では、建築家・丹下健三が東京・成城に設計した自邸(1953年竣工。現存せず)を、瀬戸内海を見下ろす広島県・福山市の海辺に再建するプロジェクトを進めています(完成は2027年の予定)。

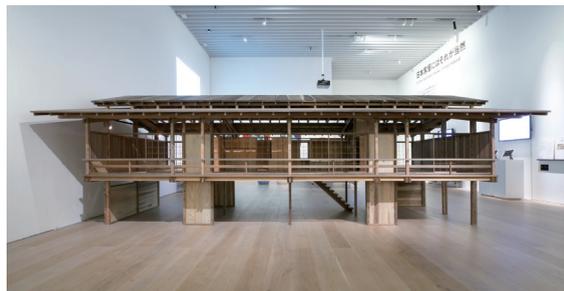
『ひろしま国際建築祭2025』では、この再建プロジェクトに関する展示を行います。

〈企画概要〉

名称 丹下健三自邸復刻プロジェクト
Kenzo Tange's Residence Reconstruction Project

会場 神勝寺 禅と庭のミュージアム(無明院)

監修 内田道子



1. 撮影/丹下健三 写真提供/内田道子
2. 模型:住居(丹下健三自邸)|設計:丹下健三|1953年(現存せず)|模型1:3|2018年
W6790 D3440 H2215|制作監修:森美術館、野口直人|制作:おだわら名工舎
展示風景:「建築の日本展:その遺産のもたらすもの」森美術館(東京)2018年
撮影:来田 猛|写真提供:森美術館

一般財団法人

神原・ツネイシ文化財団について。



神原・ツネイシ文化財団
KAMBARA & TSUNEISHI FOUNDATION

『ひろしま国際建築祭2025』を主催する神原・ツネイシ文化財団は、建築文化を発信することを目的のひとつとして設立された財団です。

<ミッション>

- 1 Future “建築”で未来の街をつくる。
- 2 Education “建築”でこどもの感性を磨く。
- 3 Tourism “建築”で地域を活性化させる。
- 4 Legacy 地域の“名建築”を未来に残す。

建築文化を愛し、先人が築いてきた建築に対する知恵・技術・思想を尊重し理解に努めることは、個人にとっても社会にとっても、とても重要なことだと私たちは考えています。

そのような思いから、建築文化により「未来の街づくり」、「こどもの感性を磨き」、「地域を活性化させ」、「地域の“名建築”を未来に残す」こと。この4つをミッションとして掲げ、この財団を立ち上げました。

私たちの大きな取り組みのひとつに〈ひろしま国際建築祭〉があります。これは3年に一度、広島を中心とした瀬戸内から世界へ向け、建築文化を発信していく取り組みになります。

30年、50年、100年と、長い年月をかけ、“建築”をキーワードに地域に希望と活力を与え、地域社会の発展に貢献できるよう邁進して参ります。

瀬戸内海は日本の歴史上“文化・物流の大動脈”を担ってきました。私たちはこの海を通じ、海外から人や文化を招き入れ、同時に発信し、文化交流を行ってきたのです。それゆえにこの地域は古建築から現代建築まで、貴重な建築の宝庫にもなっています。そういった歴史や地域性を活かし、ここ瀬戸内から建築文化を軸に“個性豊かで魅力的な社会”や“国際的な交流”のあり方を、皆様と共に探っていきたいと考えています。

神原・ツネイシ文化財団
代表理事
神原勝成

<財団概要>

一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

所在地 広島県福山市沼隈町常石 1083

設立日 2024年1月30日

- 目的
1. 建築文化を軸にした展覧会、講演会、情報発信等の事業
 2. 建築文化を軸にした地域活性化および雇用促進のための事業
 3. 地域の建築文化、伝統文化、伝統産業およびまちなみの保全に関する事業

役員一覧

代表理事 神原勝成

理事 石川康晴 内田道子 大原あかね 白井良邦 福武英明 溝口至亮

監事 足立仁

<https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>

『ひろしま国際建築祭 2025』 Hiroshima Architecture Exhibition 2025

- 開催時期** 2025年10月4日(土)～11月30日(日)(58日間)
- 開催地** 広島県福山市・尾道市
- 会場** 福山エリア (ふくやま美術館 | iti SETOUCHI | 神勝寺 禅と庭のミュージアムほか)
尾道エリア (尾道市立美術館 | LOG | ONOMICHI U2 ほか)
+瀬戸内海周辺のサテライト会場
- 主催** 神原・ツネイシ文化財団
- 後援** 広島県 福山市 尾道市 一般社団法人せとうち観光推進機構 一般社団法人広島県観光連盟
広島商工会議所 福山商工会議所 尾道商工会議所 中国新聞社
- 協力** 尾道市立美術館 ふくやま美術館 おりづるタワー domaine tetta LLOVE HOUSE
iti SETOUCHI 神勝寺 ONOMICHI U2 LOG

- 総合ディレクター** 白井良邦 (神原・ツネイシ文化財団理事 / 慶應義塾大学SFC特別招聘教授)
- チーフキュレーター** 前田尚武 (神原・ツネイシ文化財団主任研究員 / 京都美術工芸大学特任教授)
- 参加建築家** 安藤忠雄 伊東豊雄 妹島和世+西沢立衛 (SANAA) 坂茂 山本理顕ほか
- 公式ウェブサイト** <https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

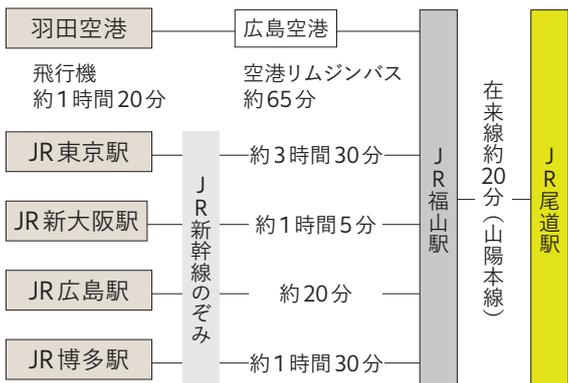
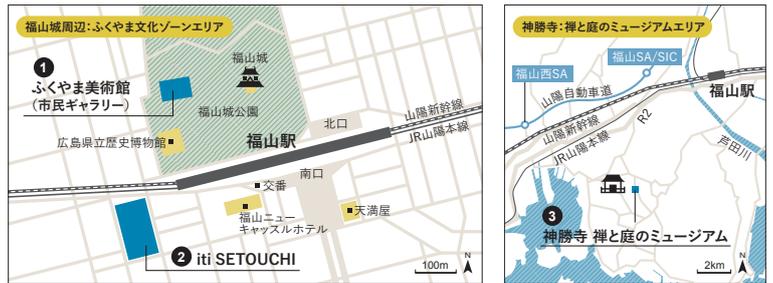
〈福山へのアクセス〉

- ◎電車をご利用の場合
最寄駅：JR山陽本線福山駅(新幹線)
- ◎飛行機をご利用の場合
広島空港からリムジンバスでJR福山駅へ。
- ◎お車をご利用の場合
山陽自動車道 福山東IC
詳しくはこちらをご覧ください。 https://www.fukuyama-kanko.com/travel/oyakudachi/k_access.php



〈尾道へのアクセス〉

- ◎電車をご利用の場合
最寄駅：JR山陽本線尾道駅 / JR新尾道駅(新幹線)
- ◎飛行機をご利用の場合
広島空港から高速バスでJR三原駅へ向かい、JR山陽本線に乗り換え、JR尾道駅へ
- ◎お車をご利用の場合
山陽自動車道 尾道IC、福山西IC
詳しくはこちらをご覧ください。
<https://www.ononavi.jp/access/access.html>



※電車であれば、新幹線「のぞみ」が1時間に1本停車する「JR福山駅」からのアクセスがおすすめです(東京～福山まで新幹線「のぞみ」で約3時間30分)(博多～福山まで新幹線「さくら」で約1時間30分)。
※飛行機であれば「広島空港」が最寄りの空港で、JR福山駅まではリムジンバスが1日6本出ています(広島空港～福山駅までリムジンバスで約65分)
※尾道へは、JR福山駅からJR尾道駅まで、電車(山陽本線)で約20分です。